

電気フライヤー 取扱説明書



取説内容一覧

- 使用目的
- 各部の名前とはたらき
- 安全の為、必ず守ってください
- ヒーターユニットのセット
- 運転の操作方法
- 洗浄方法
- リセットボタンの解除方法
- コンセントの使用
- 故障の見分け方と処置方法
- 機械本体の設置について
- お取扱い商品の揚げ方をご説明します
- 排油処理の方法
- 返却時の手順

フライヤーレンタル専門店

〒379-2166

群馬県前橋市野中町369-2

TEL：027-289-6080

FAX：027-289-6166

緊急携帯：080-5643-7181

フライヤーレンタル専門店ホームページへ
簡単にアクセスできます。



【レンタル商品の消費電力を御確認下さい】

ご利用商品によっては、たこ足配線等が原因で電圧が低下する恐れがありますので、ご注意下さい。

電圧が低下すると、商品が正常に動作しない場合がございます。

突然作動しなくなった場合は、建物のブレーカーが落ちた可能性がございます。

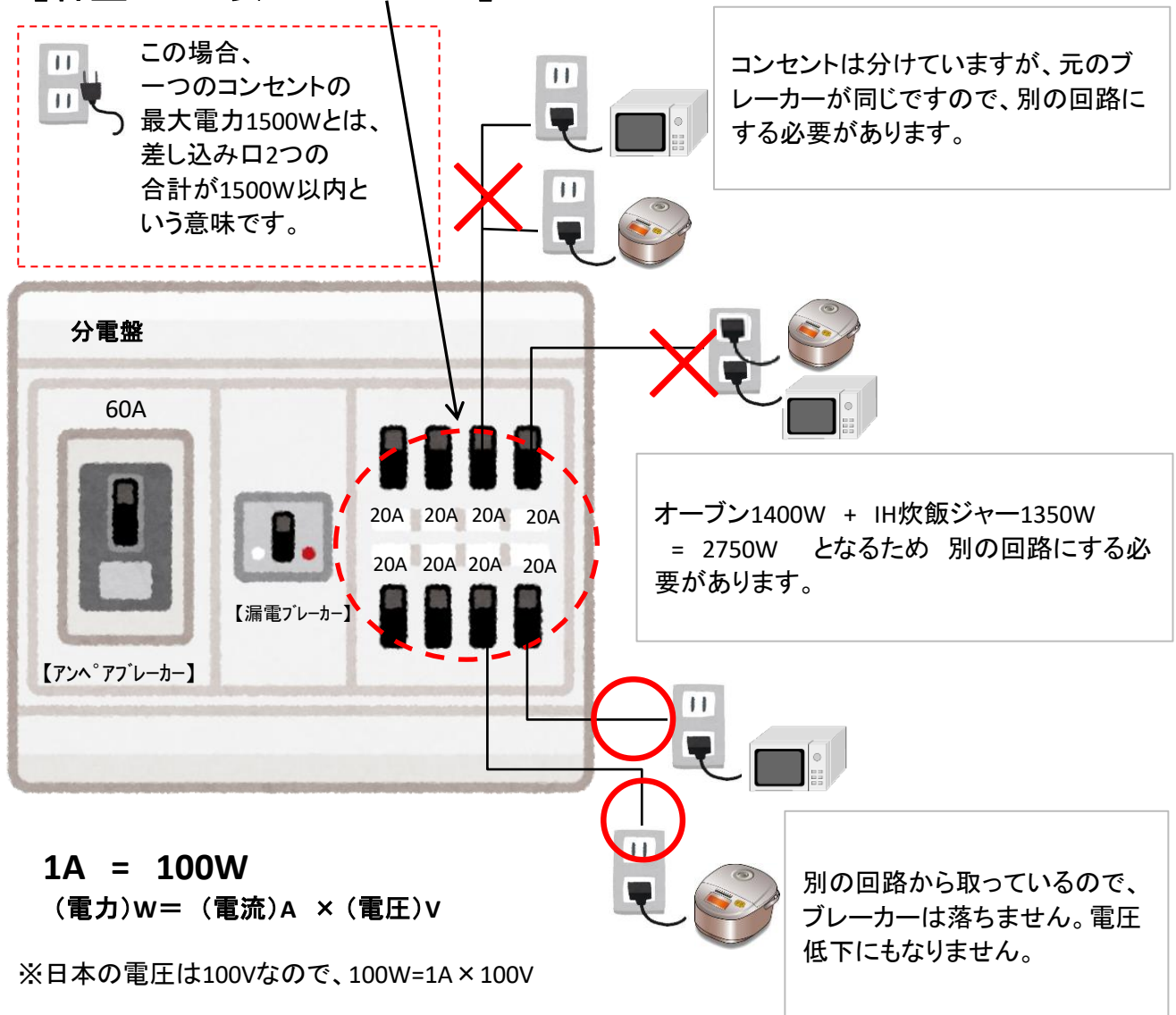
また、一つのコンセントの最大電力は1500Wまでとなります。

複数台の電化製品を使用する場合、コンセントを分けても元となるブレーカーが同じ場合は電圧低下となる可能性が高いです。

その場合、コンセントを分けるのではなく、ブレーカーの回路を分けてお使いください。

商品を正常にご利用いただく為に、お客様の利用環境を御確認ください。

【容量20Aの安全ブレーカー】



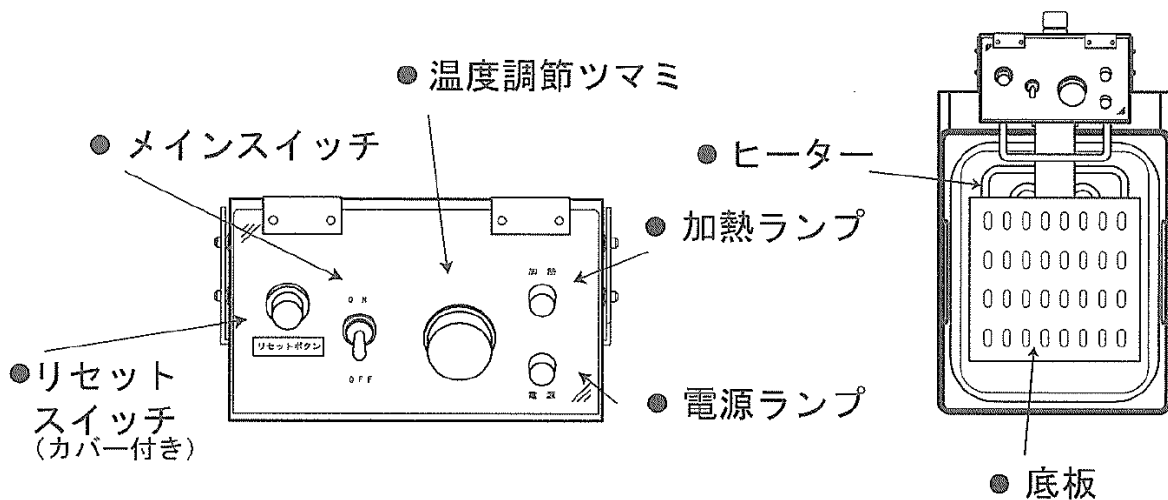
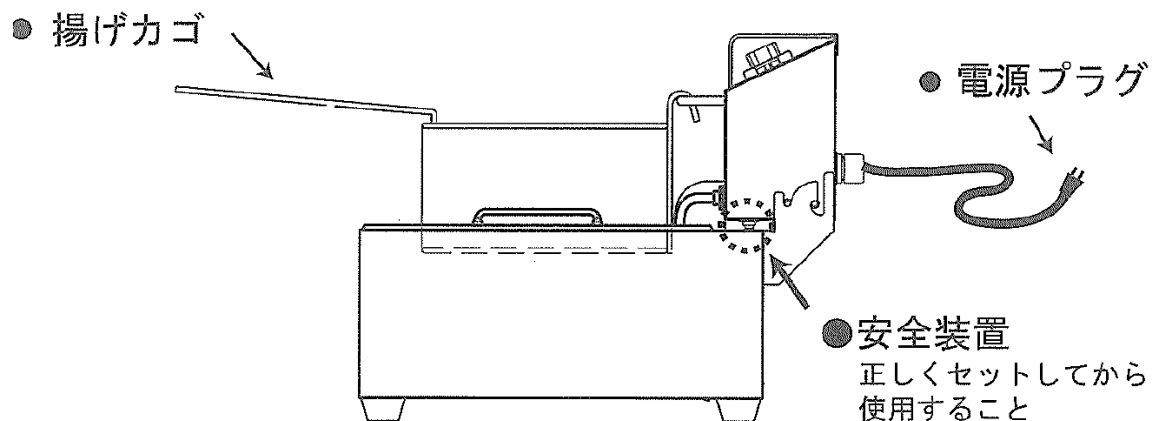
使用目的

1

天ぷら・から揚げなど、食材を揚げる

各部の名前とはたらき



2



仕様

型式	PRO-3.5FLT	PRO-5FLT	PRO-3.5FLWT	PRO-5FLWT
電源	単相100V		単相100V × 2	
消費電力 (W)	1400W		1400W × 2	
油量	3.5ℓ	5ℓ	3.5ℓ × 2	5ℓ × 2
温度調節 (°C)	60°C ~ 200°C		60°C ~ 200°C	
質量 (Kg)	4kg	5kg	8kg	11kg
外形寸法 (幅 × 奥行 × 高さ (mm))	179 × 469 × 358	267 × 464 × 358	374 × 469 × 358	550 × 464 × 358

- ご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよくお読みのうえ正しくお使い下さい
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください
- 表示と意味は次のようになっています

	警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が、想定される内容を示します
	注意	誤った取り扱いをすると、人が障害を負ったり、※物的障害の発生が、想定される内容を示します

※物的障害とは、家屋・家財及び家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します

注意

この機械は取り扱い説明書で述べられた操作方法や安全上の注意事項を十分理解した専門の人のみが操作してください。もし、操作をする人が変わる場合は、前もって使い方を十分勉強した上で操作してください。

警告

- 本機は業務用ですので子供だけで使わせたり、幼児の手の届く所で使用しないこと。
感電、ケガの原因になります

注意

このお使いになっている商品を他に売ったり、譲渡される時には、新しく所有者となる方が安全な正しい使い方を知るために、この取扱説明書を大切に保管してください。

警告

- 異常時は電源プラグを抜くか、ブレーカーを切って、すぐに最寄の販売店へ連絡してください
異常のまま運転を続けると感電、火災の原因になります

警告

濡れた手で電源プラグなど電気部品にふれないでください。
また、電源スイッチを操作しないで下さい。感電事故の原因になります。

警告

- 屋外で使用しないこと
雨水のかかる場所で使用されますと、漏電、感電の原因になります。

警告

- 本体に水をかけないこと
機械を掃除するときなどは、本体部分に水をかけたり、本体ごと水の中につけて洗ったりしないで下さい。電気部分に水がかかり漏電や故障の原因になります。

警告

- 改造は絶対に行わないこと
改造をされると、水漏れや感電、火災の原因になり、所定の性能が発揮できず、保証の対象外になります。

警告

加熱する際は必ず油を入れてから行ってください。
空焚き禁止

注意

掃除する時や点検の時は、必ず電源プラグを抜くこと
感電する恐れがあります。

警告

ユニットの取り付け、取り外しは必ず電源プラグをコンセントより抜いて行ってください。

警告

発火点の低い油は使用しないこと。
発火の恐れあり
オリーブオイル・ラード等

警告

使用前、使用後は必ず温度調節ツマミを「OFF」位置にしメインスイッチを操作してください。
メインスイッチのみの操作で加熱することは故障の原因となります。

警告

発電機での使用はしないこと。
故障の原因となります
電源コードの発熱、発火の恐れあり

警告

電源電圧は100V（±5V）の範囲内で使用すること

この範囲以外では、機械の故障や切除能力の低下、発熱、火災を招く原因になることがあります。

注意

本体の破棄は専門業者に依頼してください。

警告

- アースは必ず取り付けてください。
- 万一の感電防止の為必ずアース線を正しく取り付けてください。
- アース線その他、漏電ブレーカーの取付をお勧めします。詳しくは販売店にご相談下さい。
- アース線の取り付け、取り外しは必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

《コンセントにアース端子がある場合》
アース線の先端を確実にアース端子に取り付けてください。

《コンセントにアース端子が無い場合》
第三種設置工事が必要です。

設置工事は電気工事士の資格が必要です。

注※ガス管や水道管、電話線、避雷針等には絶対取り付けないで下さい。



警告

修理技術者以外の方は絶対に分解したり修理しないこと
異常動作をしてケガをしたり、修理に不備があると感電、火災などの原因になります。



警告

漏電遮断機が『切』に作動した場合には、最寄の販売店に連絡すること
無理にレバーを『入』にすると、感電や火災の原因になります。



警告

電源は専用コンセントを使用すること
電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用、及びタコ足配線をした場合には、感電や発熱、火災の原因になります。



警告

電源コードを傷つけないこと
加工したり、引張ったり、たばねたり、また重たいものを載せたり、挟み込んだりすると、電源コードが破損し、感電、火災の原因になります。



警告

電源プラグの金属部および金属部の付近にホコリが付着していないか定期的に確認し、がたつきのないように金属部の根元まで確実に差し込むこと。



警告

電源プラグを持って抜いて下さい。
電源コードを引っ張るとコード内部が断線し、火災、感電の原因になります。
電源コードを抜く時は、電源コードを持って抜かないで下さい。



警告

使用後は、安全の為電源プラグをコンセントから抜くこと
電源プラグやコンセント部にほこりが溜まって発熱、発火の原因になることがあります。



警告

使用中は本体に触れないこと
使用中本体は熱くなっていますのでヤケドする恐れがあります



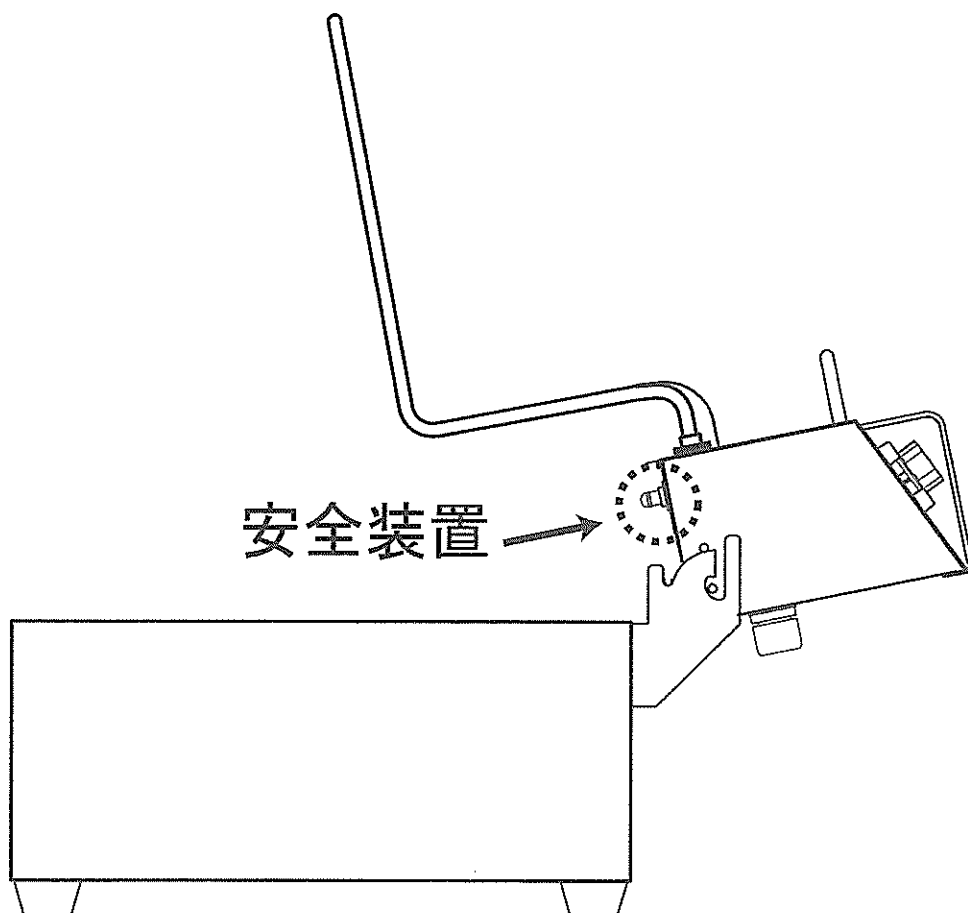
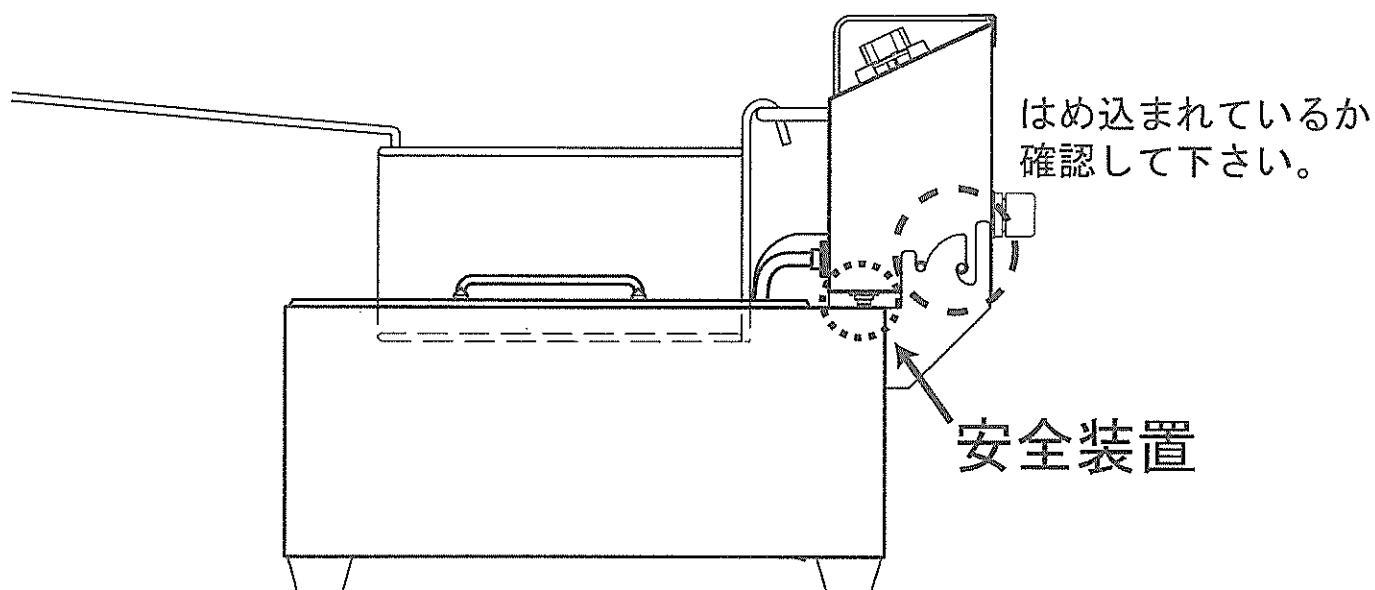
警告

コードが束ねてあったり、折れ曲がっていたり、挟まれて押し潰されていると感電や発熱・火災の原因になります。



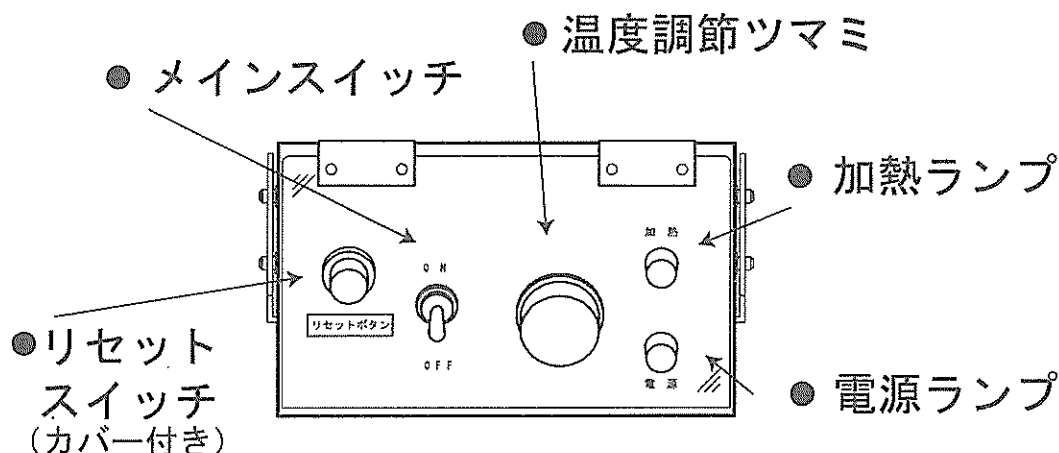
警告

機械を稼働させているとネジなどが緩んできますので、使用前に必ずネジの緩みや本体のガタツキが無いかな必ず点検してから使用すること。



※ご注意※

安全の為、ヒーターユニットがしっかりとはめ込まれていないと電源が入らないように設計されております。



注意 フライヤーのご使用中は、絶対にその場を離れて放置しないで下さい。

基本操作

- ①メインスイッチ及び温度調整ツマミを「OFF」にして電源プラグを差して下さい。
(アース線もつないで下さい。)
- ②メインスイッチを「on」にして下さい。(この時電源ランプが点灯します。)
※この時操作ボックスがしっかりセットされていないと電源ランプは点灯しません。
- ③油を注ぎ温度調整ツマミで任意の温度に設定して下さい。(この時加熱ランプが点灯します。)
- ④油温が設定温度に達するとヒーターの加熱が中断されます。(この時加熱ランプが消えます。)
また油温が下がると加熱され、この加熱、中断が繰り返されます。
※揚げ物をする際、付属の揚げカゴをご利用下さい。
- ⑤調理終了後は温度調整ツマミを「off」の位置に戻し
メインスイッチを「off」にして電源プラグを抜いて下さい。

注：異常発生時には、通電をストップします。原因を(処置方法を確認して下さい。)
取り除いた後プロテクタ部のカバーを反時計方向に回しカバーを外してヒーター部分が冷めた後、飛び出したスイッチを押し込んで下さい。(※6ページを参照)

- 警告** オリーブオイル、ラード等、発火点の低い油は絶対にご使用にならないで下さい。発火する恐れや機械の故障の原因となります。
- 注意** 長時間調理をしない場合は、電源プラグを抜いて各部の清掃をし、ほこりが入らない状態にして保管して下さい。
- 注意** ヒーターの、**空焚きは絶対にしないで下さい。**
油が入っていることを確認してから運転して下さい。
- 注意** 油槽に揚げカスがたまりますと、ヒーターに悪影響を与えるだけでなく、油を傷める原因となりますので、定期的に掃除するようにして下さい。

油の移し変え方法

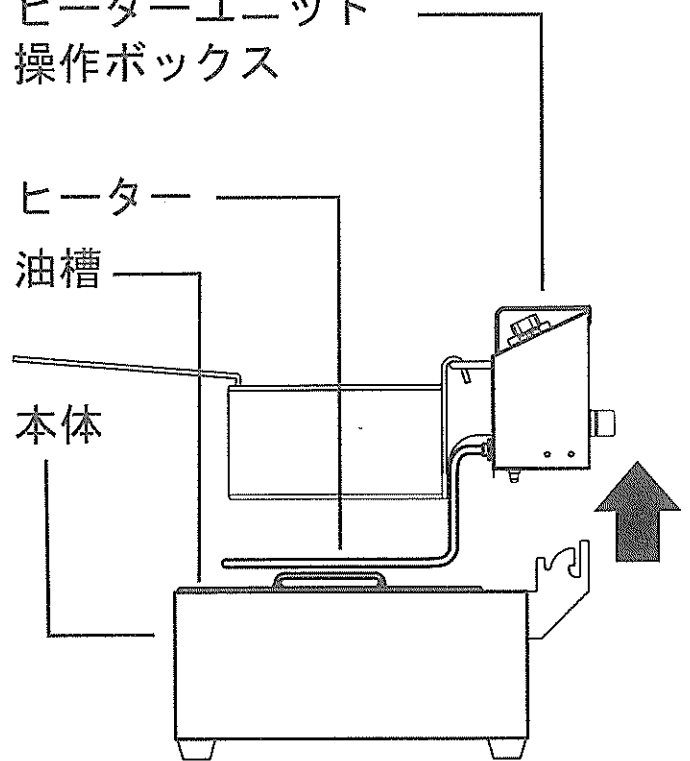
- ①コンセントより電源プラグを抜いて下さい。
- ②冷めた後、油槽よりヒーターユニットを外して下さい。(底板もありますのでご注意ください。) この時、ヒーター等についた油が落ちますので充分油きりをして下さい。
- ③本体から油槽を外し適当な油缶に油を移して下さい。

⚠注意 やけどに充分注意して下さい。

● ヒーターユニット
操作ボックス

● ヒーター
● 油槽

● 本体



洗浄の方法

- ①本体と油槽は、中性洗剤とぬるま湯をかけスポンジ等で汚れを落として下さい。
- ②ヒーターもブラシ等(金属以外のもの)でこすり、汚れを落として下さい。その時、各センサー(温度過昇防止・温度調節の感熱部、キャピラリー)を損傷しない様、十分注意して下さい。
- ③本体洗浄後、元に戻す場合は取り外しの逆の順で確実にセットして下さい。
※ヒーターユニットが正しくセットされていないと通電されませんのでご注意ください。

⚠注意 清掃時、操作ボックス部には絶対に水をかけないで下さい。

⚠注意 水が残っていた場合に、油を入れ加熱しますと油がはねたりしてやけどする場合や、油がふき上がりあふれることがあります。

⚠注意 操作ボックスに水や油が流れたり、付着した場合は必ず拭き取るようにして下さい。故障の原因となります。

⚠注意 アース線は必ずつないで下さい。感電する恐れがあります。

リセットボタンの解除方法

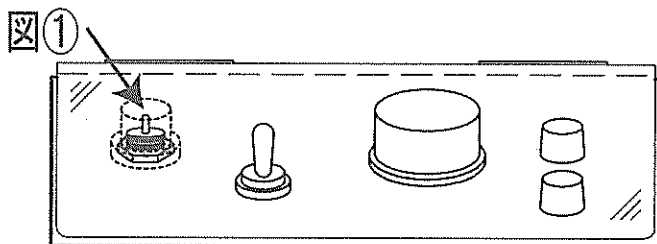
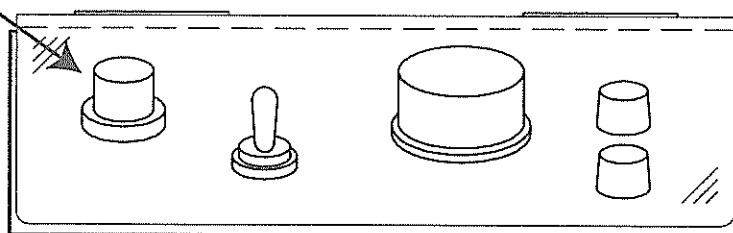
7

温度の急激な変化などによる異常発生時には、通電をストップします。
※水分の多い食材や冷凍食品など投入すると安全装置が作動する場合があります。

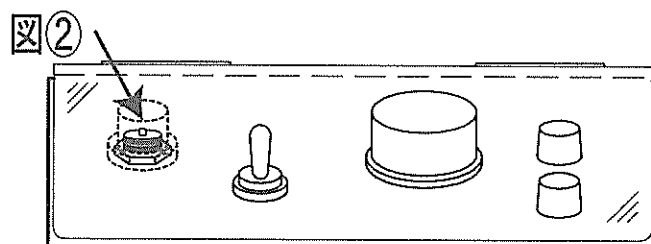
リセットボタン部のカバーを反時計方向に回しカバーを外してヒーター一部が冷めた後、下図①のように飛び出したスイッチを押し込み下図②の状態になったらカバーを逆の手順で取り付け使用して下さい。

※何度もリセットスイッチが飛び出す事が続くことがあれば故障も考えられますので販売店にご相談下さい。

リセットスイッチカバー



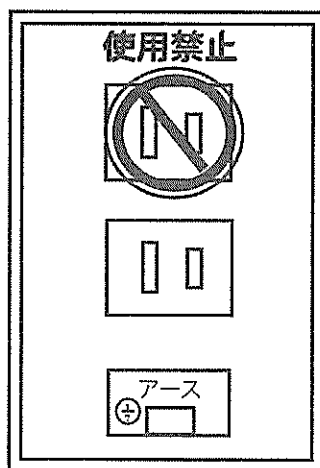
リセットスイッチが飛び出した状態。



通常の状態。

コンセントの使用

8



●専用回路でご使用ください。
※他の電化製品を同じ回路で使用すると故障の原因となります。

- ご使用中に異常を感じられた時は、次の処置をしていただき、それでもなお異常のある時は事故防止のため電源プラグをコンセントから抜いて使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談下さい。
- 修理技術者以外の方は絶対に分解したり、修理しないで下さい。異常動作してケガをしたり、修理に不備がありますと故障、感電、火災などの原因になります。

症 状	確認箇所	処 置 方 法
電源が入らない	メインスイッチが「off」になっていませんか？	メインスイッチを「on」にしてください。
	電源プラグがしっかりとコンセントに差し込まれていますか？	しっかりと電源プラグを差し込んで下さい。
	ヒーターユニットがしっかりと本体にはまっていますか？	ヒーターユニットをしっかりと本体に、はめ直して下さい。
熱くならない	ヒーターランプが点灯していますか？	症状「電源が入らない」の項目を確認して下さい。
	温度調節がOFF位置になっていませんか？	温度調節を調節して下さい。
温度がずれる	揚げカスが底に溜まってませんか？	揚げカスを取り除いて下さい。
	ヒーター部及び、温度センサーが汚れていませんか？	ヒーター部及び、温度センサーを掃除して下さい。
異臭がする	機械内部から異臭がしていますか？	使用を中止し、販売店に連絡して下さい。

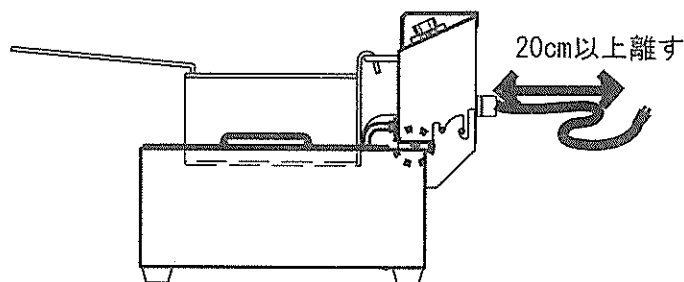
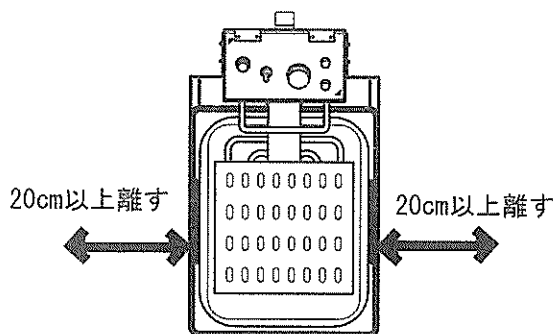
機械本体の設置について

※ 注 意 ※

壁などから隙間をあけて機械を設置して下さい。

※設置部・周辺の壁は耐火構造であること

※熱機器の設置については安全の為、消防法の設置基準に従って設置して下さい



排油処理の方法

①		<ul style="list-style-type: none">• 油槽の中から、底板を取り出します。
②		<ul style="list-style-type: none">• トングの先を底板の穴のなか（2箇所）に入れます。 <p>軽く左右に動かして、ヒーターに絡んでいる底板の返し部分を外してから、出してください。</p> <div data-bbox="906 981 1345 1272"><p>例 1</p></div> <p>例 1 のように真ん中を掴んでしまうと返しが上手く外せません。また、底板がすべって、熱い油のなかに落としてしまい、油がはねる可能性があります。</p>
③		<ul style="list-style-type: none">• 外した底板は、返却備品のバットなどと一緒にしておくと、返却忘れ防止になります。

<p>④</p>		<ul style="list-style-type: none"> 操作ボックスについているフックの部分を持ち、ヒーター部分をゆっくり上にあげます。 <p>勢いよく上げてしまいますと、油槽中の油をひっばってしまい、火傷の原因になります。</p>
<p>⑤</p>	 <p>ビス部分拡大図</p>	<ul style="list-style-type: none"> ヒーター部分を持ち上げた時、操作ボックスの左右にあるビス（２つ）が溝にはまっているかを確認してください。 <p>ここが、きちんとはまっていないと、ヒーター部分が落ちてきます。 火傷等の原因になりますので、必ず、ビス（２つ）が溝にはまっていることを確認してください。</p>
<p>⑥</p>		<ul style="list-style-type: none"> 凝固剤を使う場合は、この状態で油のなかにいれてください。 <p>固まった排油の処理は、お住まいのゴミの分別に従って処分してください。</p>

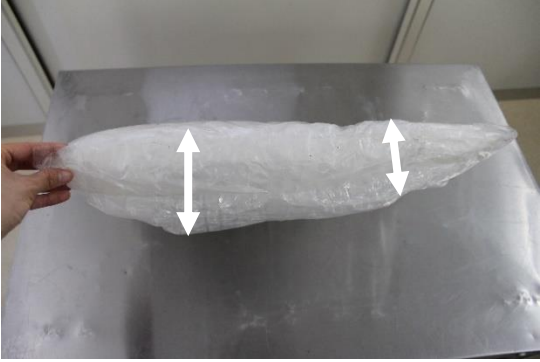

廃油をどこかに移す場合

①		<ul style="list-style-type: none">• 排油缶などの入れ物をご用意ください。
②		<ul style="list-style-type: none">• 油槽を本体から外します。 <p>少し、油槽を傾けてから取り出しますので、油がたくさん入っている場合は、一度操作ボックスごとヒーター部分を取り外してからおこなってください。</p>
③		<ul style="list-style-type: none">• 油を移します。 <p>火傷に注意しておこなってください。</p> <p>排油の処理はお住まいのゴミの分別に従って処分してください。</p>
④		<ul style="list-style-type: none">• 油槽と操作ボックスを本体に戻してください。

返却時の梱包方法

①	 <p>電気コード側</p>	<ul style="list-style-type: none">• クッションが2カ所ついている方に電源コードがくるように入れてください。
②		<ul style="list-style-type: none">• バット（トレイ2枚・網2枚） トング すくいアミ 底板 をビニール袋に入れてください。
③		<ul style="list-style-type: none">• コードをまとめます。
④		<ul style="list-style-type: none">• 本体を箱のなかへ入れてください。

⑤		<ul style="list-style-type: none">• ①揚げかご• ②備品一式• ③ふた を梱包します。
⑥		<ul style="list-style-type: none">• 揚げかご (①) を、油槽のなかに入れます。
⑦		<ul style="list-style-type: none">• 油槽の上にふた (③) を置いてください。
⑧		<ul style="list-style-type: none">• ふたの上に備品一式 (②) を入れてください。

⑨		<ul style="list-style-type: none">• パッキンは前後で厚みが違います。
⑩		<ul style="list-style-type: none">• 厚みがある方を油槽の上にして入れてください。 <p>箱を閉めてください。</p>
<p>▼返却用の伝票を指定の位置に貼り付けてください。 返却用伝票は弊社にてご用意させていただきます。 梱包の箱に貼り付けてあります。</p> <div data-bbox="280 1128 970 1290" style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"><p>お届け時の伝票の下にある赤い伝票が返却用の伝票です。</p></div> 